

Ⅲ 回帰分析結果の概要

～大阪市立大学院創造都市研究科五石敬路准教授による分析～

1. 子どもの孤食と親子の健康状態

子どもと夕食を一緒にしている程度が少ないほど親子の主観的健康状態が良くない。その理由は、子どもの食事の頻度や食事の内容よりも、親の生活リズムの不規則さにより子どもの孤食が増え、睡眠時間が短くなっていることが原因となっている可能性が高い。

2. 就労状況と生活リズム

2つ以上仕事をしている世帯は睡眠時間が短く、経済状況が厳しく、子どもと一緒に夕食をとっていないことが多い。

3. 親が判断した子どもの学校での成績の決定要因

親が判断した子どもの学校での成績は、世帯の所得や親の学歴からは影響がみられない。親が判断した子どもの学校での成績が高いほど、親が子どもに望む学歴は高く、教育費が多い。

4. 生活に対する満足度と周囲の支援者の有無

所得が低く、子育ての支援者が周囲にいないほど、生活に対する満足度が低い。

5. 生活リズムと健康

仕事のため家を出ている時間が長い世帯ほど平均睡眠時間が短く、平均睡眠時間が短いほど健康状態が良くない。